

編集後記

この2年間にわたる新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックは、医学教育にも大きな影を落としました。学生は、登校や大学病院への立ち入りを制限され、教員や仲間との対面・交流もなく、抱えるストレスは相当なものだと推測されます。

そんな医学部学生へのさらなるストレスとして、最近クローズアップされているのが、いわゆる「地域枠」問題です。「地域枠」とは、地域における医師確保などを目的として、卒業後に一定期間、特定地域に勤務することを入学時に確約させ、「合格のしやすさ」や「奨学金の支給」などのアドバンテージを付与する制度です。ところが、その制度に対する学生の理解・認識不足などのため、入学後に「一般枠」の学生との間に「壁」や「差別感」が生じるなどして、それが精神的ストレスになっていることが指摘されています。また、地域枠を増やすことによる、学生の学力の低下も危惧されています。

一方、卒業に際して奨学金を返還するなどして地域枠を離脱する学生の増加も問題化しています。厚生労働省によると、この10年間における離脱者は全国で95人に上るとされています。ましてや、奨学金を伴わない「地域枠」では、地域医療への従事は法的には単なる「口約束」にすぎず、離脱者が出ている大学ではその対応に苦慮しています。

このような事態に直面し、離脱者に対して「違約金」を課す大学も出てきています。さらに厚生労働省は、離脱者の研修を引き受けた研修病院への補助金を削減する制度を設け、日本専門医機構も離脱者を専門医として認めない方針を打ち出しています。これに対し、医療の実情をよく知らない高校生にそのような義務を

課し強制するのは、人権侵害であるとの声も出てきています。

特に条件を課さずに入学させ、その後の教育の中で、学生自らが当該大学の診療科を選択し地域医療への従事を望む、という方向に向かわせるのが理想なのでしょうが、現実にはそう甘くはありません。特に、医師養成に地方自治体の税金が投入されている公立医科大学においては、医師の地元定着はきわめて切実な問題です。大学入試とその後の卒前・卒後教育の在り方について、大学・自治体、そして高校や学生も含め、十分なコミュニケーションの上で望ましい形を探っていくことが必要だと考えます。

今月号の特集は、高橋 淳先生のご企画による「脊柱変形矯正の進歩」です。脊柱側弯症や成人脊柱変形に対する矯正手術の技術は、各種のデバイスの進歩も相まって、急速な進化を見せています。Cotrel-Dubousset システムが初めてわが国に導入された当時、スクリューとロッドの連結に四苦八苦していたことを思えば、隔世の感があります。本特集から最新の情報を吸収していただければ幸いです。

さて、私は2007年以来、15年間にわたり、本誌の編集委員を務めてきましたが、2021年度末をもって退任させていただくことになりました。これまで多くの興味深い論文を読ませていただき、大変勉強になりました。また、特集などの企画に携わることは実に楽しい作業でもありました。これまでお世話になった編集委員の先生方、金原出版の方々、そして本誌読者の皆様に心より感謝申し上げます。本誌の今後ますますのご発展をお祈りいたします。

(山下敏彦)

「整形・災害外科」第65巻 第2号 (2月号) 2022年2月1日発行 (毎月1回1日発行) 定価 2,860 円 (本体 2,600 円 + 税 10%) 年間購読料金 定価 44,660 円 (本体 40,600 円 + 税 10%) 〔年間13冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165 [編集室直通] TEL 03 (3811) 7184 [営業部直通] FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。